

2023年5月27日(土) **ウタセ真鯛釣り** 強丸 友人、知人夫妻 4人で
小潮:旧4/8 干潮 05:57(118cm) 満潮 10:24(139cm) 干潮 17:28(61cm) 神島
私 マダイ 48cm、25cm カワハギ 27cm 1尾 チャリコ(リリース)

09時00分 出船
10時24分 満潮 139cm : 神島
16時30分 沖上がり



【料金】 乗り合い 13,000円(値上げした) 餌つき 氷なし
釣り座は抽選

【仕掛け】

以前の記録から

※以前の記録(功成丸の船長の話)から、「ハリスの長さは120cm、ハリス・幹糸とも6号」と思っていたが、強丸の船長はどう考えているか尋ねた。「ハリスの長さは150cm～180cm」ということだった。

※春は潮が大きいのでハリスを長くすると以前の船長から聞いていた。確かに、調べてみると、春の潮は大きい。昨年、功成丸に乗船したのは、5月26日であり、この時、「次回は120cmで」と記録している。ゴールデンウィークより早くウタセ真鯛釣りに行くつもりはない。以上のことから、次回から、春のウタセ真鯛釣りでも、「ハリス6号120cm」にすることにしよう。



○“以前の記録から”を参考に自作仕掛けを持参した。

自作	ハリス5号1.0m	幹糸5号	枝間1.2m	伊勢尼12号3本鉤	捨て糸4号30cm
自作	ハリス6号1.2m	幹糸6号	枝間1.4m	伊勢尼12号3本鉤	捨て糸4号30cm
ハヤブサ製	ウタセ真鯛				
	ハリス4号1.5m	幹糸4号	枝間2m	伊勢尼11号3本鉤	捨て糸30cm

○ハリス1.0mは隣の友人とお祭りをしたため、処分した。

○ハリス1.0mのつもりでセットしたのは、ハリス1.2mのものだった。

○友人が良型を釣った。知人もマダイを釣った。私には釣れないので船長に尋ねた。

「1mのハリスを使っているが、1.5mの方が良いですかね」→「1.5mの方が良いね」

「2mにしなくても良いですか？」→「1.5mでいい」

○そこで、ハヤブサ製のハリス1.5mのものをセットした。

○しばらくして、48cmのマダイを釣った。

○船長に尋ねた。「良型が釣れたのはハリスを1.5mのものに変えたからですかね」

船長は、ニコッと笑っただけだった。

【持ち物】

電動リール 竿受け バッテリー 竿:ウタセ真鯛用
錘 10号～60号 エビ用網 ‘かんこ’から魚をすくうためのタモ
魚を締めるためにゴム手袋、アイスピック、ナイフ

【様子】

○潮が悪いことと、あまり釣果が出ていなかったが、せっかく、誘っていただいたので行くことにした。

○ツレも行く予定だったが、体調不良でキャンセルした。

- 天気は晴れ、風は微風。遠方に台風があり、少しうねりがあったが、たいしたことはなかった。
- 酔い止めは、乗船1時間前に飲んだ。酔わなかった。
- 潮の関係からか、出船が9時だった。
- 左舷に4人が並んで座った。私は大艫に座らせてもらった。
- しかし、せっかく大艫に座れたのに、終日、仕掛けが船の前に向かって流れた。
- 「おもりは30号」と船長から指示があった。その後、40号という指示に変わった。
- カワハギが釣れていたのに、キス竿にカワハギ仕掛けも準備したが、釣れなかった。カワハギが常にエサを取っていくという状況ではない。このことからカワハギ釣りはあきらめた。
- カワハギがいるのならと、巻き上げ釣法を繰り返した。始めに、カワハギを釣った。狙い通りである。
- しかし、続かない。チャリコを1尾取ったのみ。(巻き上げ釣法で釣ったか定かではない)
- 友人がカワハギや小鯛を数尾釣った。その後、良型を上げた。尋ねると、「底から1m上げて待っている」とのこと。
- 底に落としておくと、3本ともエサがなくなるとき、3本とも残るときがある。タイもカワハギも時々回って行くという状態なのだろう。
- 餌取りにやられようとも、底で待つという釣り方でいこうと考えた。
- 次のように釣ったところ、良型が釣れた。
- 底まで落とさずに底から2m上で待つ。次に底まで落とす。オモリが底を叩かないように底から少し上げる。もう一度、底まで落とし、オモリが底を叩かないように、ラインを少しふかせておく。糸がふけている状態で当たりがあったので、糸を巻いてから合わせを入れた。グングンと竿先が海中に突っ込む。良型だ。後でサイズを測ったら48cmだった。
- 底から2m上で待っている間に仕掛けが潮に流され、次に仕掛けを落とすとき、落ちる場所が変わっている。これを利用して、初めから底に落とすなどして、狙う場所を変えるという方法もある。
- 「あと10分で終了します」とアナウンス。時間が無いので、直接、そこまで落としてふかせてみた。当たりがあり、合わせた。小鯛が釣れた。
- もう一度、試したがだめだった。終わりますとアナウンスがあった。

【振り返り】

- 今日の釣果から、ハリスの長さが1.5mと1.2m(1m)とでは、どちらがよいとも判断し兼ねる。
- 良型が釣れたのは、たまたま鯛が回ってきたのだろう。1.2m(1m)のハリスでは喰わなかったとは考えにくいが…。
- 「巻き上げ釣法は秋の釣り方だ」と伊三丸の船長に言われたことがある。冬に向かい、鯛も餌取りもさかんにエサを取るのだろうか。これは餌取りをかわして鯛を釣る釣り方だ。
- おぼせ釣法ができない(仕掛けが潮に流れない)とき、オモリを底につけて糸をふかせておくのはよい釣り方だ。
- 以前、私は下の鉤が餌取りにやられ、上2つの鉤はエサが残ってくるという棚を探しながら釣っていたとき、友人が底で釣っていて、餌取りにはやられるものの、鯛を数尾上げたという記憶がある。餌取りがいる層を鯛が回っているという状況もあるということを入れておくべき。
- 夕まずめでは、餌取りにやられることを覚悟で、底で待つという釣り方である。
- エサを付け替えるときは、仕掛けをすべて船に上げて、下から付けるのがよい。下鉤にエサを付けてオモリと一緒に海に入れる。中鉤にエサを付けて海に入れる。上鉤に餌を付けて海に入れる。
- 今日は風がなかったということもあるが、竿の長さや海面から船縁までの高さなどの影響から、ハリス1.2m(1m)枝間1.4m(1.2m)よりも、ハリス1.5m枝間2mの方がエサを変えるときに扱いやすかった。
 - 次回は、ハリスと枝間の長さを検討しなければならない。
 - 以前の記録を読んでから釣行に望むべし。